

2025年度

事業報告書

自 2025年4月 1日
至 2026年3月31日

公益財団法人 根津美術館

東京都港区南青山6丁目5番1号

目次

I 公益事業.....	3
【事業の趣旨】	3
【施設の概要】	3
【事業の概要】	3
1. 展示活動.....	3
(1) 特別展・企画展.....	3
(2) 日本庭園	5
(3) ミュージアムショップ	5
(4) 喫茶店	6
2. 美術品の収集、保管及び修理	6
(1) 美術品の購入	6
(2) 美術品の寄贈受入	6
(3) 美術品の寄託受入	6
(4) 美術品の保管	6
(5) 美術品の修理	7
3. 調査研究.....	7
(1) 調査・研究.....	7
(2) データベース	8
(3) 研究資料の整備.....	8
(4) 学術プロジェクトへの参加.....	8
(5) 美術品の閲覧	10
4. 教育普及.....	11
(1) 催事	11
(2) インターネットによる広報.....	12
(3) プレスリリース	13
(4) ポスター・チラシ・年間スケジュールパンフレット	13
(5) 内覧会・レセプション	13
(6) 施設案内パンフレット	13
(7) 他美術館との協力	14
(8) 地域との連携	14
(9) 有料広告	14
(10) 根津倶楽部	14
(11) メールマガジン	15
(12) 青山茶会.....	15
(13) 懸釜.....	15
(14) 美術品の貸与.....	16

(15) 画像の貸出	19
(16) 施設の貸与	19
II 収益事業	20
【事業の概要】	20
1. 不動産事業	20
III 庶務の概要	20
1. 役員	20
2. 職員	21
3. 役員会	22
(1) 理事会	22
(2) 評議員会	24
IV 法人の運営体制の充実を図るための取組	25
V 事業報告の附属明細書	26

I 公益事業

【事業の趣旨】

1940 年（昭和 15 年）11 月、初代根津嘉一郎（1860～1940）の遺志により財団法人を設立、翌年 10 月に開館した根津美術館は、美術品の展示及び教育・普及活動を行うことにより、多くの人々が日本・東洋古美術を鑑賞し、芸術・文化に関する理解を深めることを目的とした諸事業を展開している。

本年度もその理念に基づき、特別展 3 回と所蔵美術品による企画展 4 回を開催した。また、展覧会に関連した講演会、シンポジウム、スライドレクチャー、さらに会員向けプログラム、施設を利用した催事も各種、実施した。

引き続き所蔵美術品の調査研究を行い、その成果を展覧会に反映するとともに、紀要や図録等の刊行物により公表し、館外の学術研究及び教育普及活動への協力等を行った。また、継続的な収集活動によってコレクションの充実を図り、保管環境の整備や修理等により、美術品の維持・管理に努めた。なお、2026 年 3 月末の時点で、国宝 7 件、重要文化財 93 件、重要美術品 95 件をふくむ、計 7,642 件の美術品を収蔵している。

【施設の概要】

2009 年（平成 21 年）10 月に新創開館した本館は地上 2 階（展示室 1～6 等）、地下 1 階（講堂等）。1990 年に建設した展示施設を 2007 年に収蔵庫と事務室に改装した事務棟は地上 2 階、地下 1 階からなる。2009 年度に地域新エネルギー等導入促進対策費補助金補助事業で導入した、本館 2 階屋根上の 252 枚のソーラーシステムパネルを引き続き運用し、資源エネルギーの活用にも努めている。

日本庭園には、茶室 4 棟および薬師堂があり、各所に石造物約 150 件が据えられている。庭園の豊かな樹木は港区の保護樹林に指定されている。

【事業の概要】

1. 展示活動

（1）特別展・企画展

美術館の開館時間は、午前 10 時から午後 5 時までとし、月曜日と展示替期間及び年末年始を除く毎日開館した。財団創立 85 周年記念特別展「国宝・燕子花図と藤花図、夏秋溪流図 一光琳・応挙・其一をめぐる 3 章」会期中の 5 月 5 日から 11 日まで（休館日の 7 日をのぞく）の 6 日間は、午後 7 時まで開館時間を延長した。また、快適な観賞空間確保のための入館者数のコントロールと事前決済による受付のスムーズ化を目的として、2020 年の秋に導入したオンライン日時指定予約制を引き続き実施した。

入館料は、特別展一般 1,500 円、学生 1,200 円、企画展一般 1,300 円、学生 1,000 円とした（いずれも中学生以下は無料）。また、オンライン日時指定予約の利用促進のため、予約をしていない来館者には、上記の入館料に一律 100 円を上乗せした。障害者手帳提示者と同伴 1 名及び運転経歴証明書提示者へは 1 名につき 200 円の割引を行った。また、会員証の提示で、ICOM（国際博物館会議）は会員本人、日本博物館協会は会員本人と同伴者 1 名を無料とした。

2025 年度は、開館日数計 223 日間に、307,565 人（うち有料入館 284,406 人）と、昨年度に引き続き 30 万人を超える来館者を迎えた。

展示室 1・2（展覧会によっては展示室 5 も、あるいは展示室 1 のみ）では、下記の特別展および企画展を開催した。同時に、展示室 5 では、特別展・企画展の内容とのバランスをはかり、それと異なるあるいは連動するジャンルやテーマに基づくテーマ展示を、また展示室 6 では季節に合わせた茶道具の展示を下記のとおり行った。

ホール～展示室3「仏教美術の魅力」のうち、展示室3は4月12日から「中国の小金銅仏」（小金銅仏2軀・1面、金銅仏光背・台座1軀）、11月1日からは「近世の仏像」（3軀）にそれぞれ展示替えを行った。また、展示室4「古代中国の青銅器」では青銅器の通期展示を行うとともに、展示室の一角に設けた覗きケースで、4月12日から「忘れないで！今年は巳年」、7月19日から「太平の天空を駆ける 鳳凰」、また12月20日からは「天馬からペガサスへ」のテーマで中国の鏡を展示した。

特別展および企画展は原則、所蔵美術品を中心に、適宜特別出品、参考出品等の作品により構成した。いずれの展覧会も、当館学芸部が企画し、担当学芸員が中心となっており、作品の選定、運搬、会場構成、展示、特別展図録等の作成を行った。いずれも、鑑賞しやすさを考慮した展示に努め、国内外からの来館者が理解しやすい日本語・英語表記の展示解説を付し、日本語の音声ガイドを備えた。また、外部業者に委託して、館内巡回の徹底と、来館者対応を補完し、快適な鑑賞環境の向上に努めた。

・財団創立 85 周年記念特別展

「国宝・燕子花図と藤花図、夏秋溪流図 ―光琳・応挙・其一をめぐる 3 章―」 展示室 1・2

2025 年 4 月 12 日（土）～5 月 11 日（日） 展示日数 27 日間

同時開催「女面の魅力 ―能「杜若」に寄せて―」 展示室 5

「若葉どきの茶」 展示室 6

入館者 68,862 人（有料 64,256 人）

・企画展「はじめての古美術鑑賞 ―写経と墨蹟―」 展示室 1

2025 年 5 月 31 日（土）～7 月 6 日（日） 展示日数 32 日間

同時開催「大津絵 ―つくられ方・たのしみ方―」 展示室 2

「特別仕様の美術品収納箱」 展示室 5

「風待月の茶会」 展示室 6

入館者 35,482 人（有料 32,876 人）

・企画展「唐絵 ―中国絵画と日本中世の水墨画―」 展示室 1・2・5

2025 年 7 月 19 日（土）～8 月 24 日（日） 展示日数 32 日間

同時開催「涼みの一服」 展示室 6

入館者 39,953 人（有料 35,778 人）

・企画展「焼き締め陶 ―土を感じる―」 展示室 1・2

2025 年 9 月 13 日（土）～ 10 月 19 日（日） 展示日数 32 日間

同時開催「中世の絵巻物」 展示室 5

「菊月の茶事」 展示室 6

入館者 43,259 人（有料 40,596 人）

・在原業平生誕 1200 年記念特別展「伊勢物語 ―美術が映す王朝の恋とうた―」 展示室 1・2・5

2025 年 11 月 1 日（土）～12 月 7 日（日） 展示日数 32 日間

同時開催「口切 ―茶人の正月―」 展示室 6

入館者 51,537 人（有料 48,384 人）

・企画展「綾錦 ―近代西陣が認めた染織の美―」 展示室 1・2

2025 年 12 月 20 日（土）～2026 年 2 月 1 日（日） 展示日数 30 日間

同時開催「呉州手 ―吉祥の器―」 展示室 5

「初釜 ―新春を寿ぐ―」 展示室 6

入館者 29,906 人（有料 27,302 人）

・企画展「英姿颯爽 ―根津美術館の武器・武具―」 展示室 1・2

2026 年 2 月 14 日（土）～3 月 29 日（日） 展示日数 38 日間

同時開催「百椿図 一暮らしを彩る椿模様」 展示室 5

「草萌ゆる 一春の茶会」 展示室 6

入館者 38,566 人（有料 35,214 人）

なお、2020 年度からの新型コロナウイルスの流行による影響で激減した外国人入館者の割合も回復、コロナ禍以前の水準を上回るまでになった。過去 7 年間の年間平均の推移は以下のとおり。

2019 年度	27.3%
2020 年度	4.1%
2021 年度	3.8%
2022 年度	18.8%
2023 年度	40.0%
2024 年度	47.0%
2025 年度	46.0%

海外からの要人の往来が増加するにつれ、当館での受け入れも昨年より増加した。在京外国公館からの入館者数には引き続き大きな変動はなかった。

（2）日本庭園

17,000 平米におよぶ日本庭園は、中央に湧水の池を配する変化に富んだ地形に喬木や灌木が茂り、池の周囲に建つ 4 棟の茶室や点在する約 150 件の石造物が風情を添える。四季に応じた自然の変化を楽しむことのできる庭園の存在は、当館の特色のひとつでもある。本年度も、樹木の剪定・枯枝の除去、散策路の整備等を意欲的に行い、来館者の安全安心を最優先した環境の整備に心がけ、生態系の維持管理に努めた。特に、専門の樹木医に約 1 千本の樹木を対象に本格的な点検を依頼し、危険と判断された木や枝について、伐採または保全措置を講じることを進めた。

原則毎月木曜日に 1 棟ずつ、一般来館者向けの茶室見学会を実施した。

東京都建設局公園緑地部の呼びかけに応じ、「東京の日本庭園おもてなし協議会」に引き続き参加した。春と秋に発行される「東京いい庭キャンペーン」の冊子（日本語、英語）の掲載・配布協力を例年どおり行った。定期会合を通じた意見交換等の活動に参加。紅葉の時期には、例年どおり「南青山で紅葉狩り」と題し、茶室周辺の茶庭の開放と来館者の投稿を使った X フォトギャラリーを実施した。例年より実施期間が短かったが、昨年同様の投稿があり、身近に自然の移り変わりを楽しむ場としてのニーズが引き続き高いように感じられた。

（3）ミュージアムショップ

ホールに隣接するミュージアムショップでは、当館の施設や所蔵美術品、開催の展覧会に関連した商品を取り揃え、来館者の多様なニーズに合った、また知的欲求に合う商品の販売活動を行った。

学術研究の成果に基づく図録や研究紀要等の書籍に加え、展覧会の内容を考慮した専門書・一般書籍を販売するとともに、出展作品の絵葉書やグリーティングカード類、また所蔵美術品をもとにデザイン性や適正な価格を考慮したオリジナル商品を企画・制作・販売した。さらに、適宜、季節や展覧会のテーマに合った委託商品を加えることでバリエーション豊かな商品構成とし、また効果的なディスプレイを工夫することにより、当館ならではのショップづくりを促進した。

本年度、新たに制作したオリジナル商品は 10 品目、37 種類。懐紙の商品は、文様がこれまでより立体的に表現できる業者に変更し、4 種類（燕子花・夕顔・雪華・そんちゃん）を制作。懐紙として

の使用の他に便箋としても使える素材にした。

香り箱は、「燕子花」の他に、新たに「秋草」のバージョンを加えた。これは、当館所蔵の伊年印「四季草花図屏風」に描かれている菊と秋草をモチーフとし、京都の職人が桐箱にひとつひとつ丁寧に手描きをした商品である。

さらに、秋に開催した特別展「伊勢物語」にあわせ、オリジナル香「伊勢物語」を発売。那智黒蒔絵書鎮は、「燕子花」の他に、「雪月花蒔絵硯箱」の裏面に描かれている雪華文様を選び商品化した。

昨年に引き続き、絵葉書を再販する場合は管理しやすいようにバーコード付きとし、本年度は 19 種類制作した。

（４）喫茶店

庭園内に設置された NEZUCAFÉ は、来館者の憩いや談話の場である。定番の商品に、季節に応じた新商品を適宜加えることでメニューに変化をつけ、魅力あるメニュー作りを行ってきた。

なお、財団創立 85 周年記念特別展「国宝・燕子花図と藤花図、夏秋溪流図 一光琳・応挙・其一をめぐる 3 章一」の会期中は、庭園内茶室（披錦齋）で呈茶を行った。27 日間で 7,332 人（1 日平均 271 人）が利用した。

2. 美術品の収集、保管及び修理

（１）美術品の購入

本年度、下記的美術品を購入した。

金銀象嵌火箸 埋忠銘 1 対

砂張蕾頭灰匙 1 本

（２）美術品の寄贈受入

本年度、下記のとおり美術品の寄贈を受入れた。

桜・銀杏図扇 鈴木其一筆 1 本 川上博氏寄贈

石畳文蒔絵隅赤香箱 1 合 村瀬実恵子氏寄贈

色絵傘持人物文皿 1 枚 Eileen Hsu 氏寄贈

（３）美術品の寄託受入

本年度、美術品の寄託受入はなかった。

（４）美術品の保管

所蔵美術品の保管を万全にするため、以下の作業を行った。

（展示施設）

- ① 展示施設内の虫害に対する、トラップを用いたモニタリング調査を、年間 2 回（5 月 16 日～6 月 19 日、10 月 4 日～11 月 7 日）実施して、施設環境の監視を行った。
- ② 展示ケース内の除塵防黴作業を、年間 3 回（4 月 1 日～3 日、5 月 14 日、8 月 26 日～30 日）に分けて行った。
- ③ 展示ケース等の展示什器を保管する備品庫 1 の簡易除塵防黴及び簡易燻蒸（清掃及び文化財害虫用薬剤散布）を年間 1 回（5 月 14 日～15 日）行った。
- ④ 虫害の可能性がある展示什器類や新規作成した保存箱等の被覆燻蒸施工を、年間 1 回（5 月 13 日～16 日）行った。

- ⑤ 壁付展示ケースのメンテナンス及び点検作業を、年間2回（7月9日、1月26）行った。
- ⑥ 展示ケース内の環境を確認するため、パッシブインジケータを用いた酸・アルカリの濃度計測を、年間1回（8月5日～8）行った。
- ⑦ 展示施設内の温湿度環境モニタリングのため、10月8日に温湿度サーバの定期メンテナンス及びデータロガー（温湿度測定・記録計）計24台のバッテリー交換を行った。

（収蔵施設）

- ⑧ 収蔵庫の虫害に対する、トラップを用いたモニタリング調査を、年間2回（5月16日～6月19日、10月4日～11月7日）実施して、収蔵環境の監視を行った。
- ⑨ モニタリング調査の結果をもとに、収蔵庫・前室に対し職員による大規模清掃を年間1回（11月11日）、専門業者による除塵防黴作業を年間1回（3月11日～13日）実施。さらに写真場・前室に対し除塵防黴作業を年間1回（7月2日～3日）実施。また企画展示仮置場・前室に対し除塵防黴作業を年間1回（1月15日～16日）実施した。
- ⑩ 収蔵庫内の温湿度環境モニタリングのため、10月8日に温湿度サーバの定期メンテナンス及びデータロガー（温湿度測定・記録計）計15台のバッテリー交換を行った。
- ⑪ 収蔵庫・企画展示仮置場・前室の照明機能を維持するため、LED光源装置への更新作業を、10月1日～3日に実施した。またその作業に伴う収蔵棚養生作業を9月30日に、養生撤去と庫内清掃作業を10月4日にそれぞれ行った。

（5）美術品の修理

以下の所蔵美術品の修理を実施した。

- ① 国庫補助修理

重要文化財 春日山蒔絵硯箱 1合	目白漆芸文化財研究所
重要文化財 木造地藏菩薩立像 1軀	美術院
- ② 自費修理

脇指 月山貞一 明治三十七年 1振	本阿弥雅夫
兜率天曼荼羅 1幅	半田九清堂
人馬図 2幅	半田九清堂
観音蝦蟇鉄拐図 3幅	岡墨光堂
花籠蒔絵鞍 1背	松本達弥
白描伊勢物語図屏風 1隻	半田九清堂
菩薩立像 1軀	あきかわ造仏所
阿弥陀如来立像 1軀	あきかわ造仏所
五大明王像 5軀	あきかわ造仏所
大津絵 20枚	marco

3. 調査研究

（1）調査・研究

引き続き、所蔵美術品に関わる調査・研究を行い、新たな知見を、後記のとおり展覧会や館外での学会等で発表するとともに、研究成果にもとづく研究紀要および所蔵品図録を出版した。

所蔵品図録では、2020年度より「新蔵品選」全12冊（予定）の刊行を開始、今年度は第9冊として「中国絵画・中世絵画」、第10冊として「武器・武具」を発行した。また、2022年以降に新規指

定や購入により所蔵の重要文化財が5件増えたため、2020年に既刊の「国宝・重要文化財」を増補して刊行した。

① 紀要

『根津美術館紀要 此君 第17号 特集 館蔵品研究と初代根津嘉一郎の茶室』

2026年3月31日発行

800部

② 所蔵品図録

『根津美術館 新蔵品選 中国絵画・中世絵画』

2025年7月19日発行

3,500部

『根津美術館 新蔵品選 国宝・重要文化財 増補版』

2026年1月27日発行

3,000部

『根津美術館 新蔵品選 武器・武具』

2026年2月14日発行

3,000部

『百椿図』

2026年3月9日発行（六版）

3,000部

③ 特別展図録

『伊勢物語 ―美術が映す王朝の恋とうた―』

2025年11月1日発行

3,000部

2026年1月10日（二版）

1,000部

④ そのほか

『青山緑水』

2026年3月31日（四版）

2,000部

（2）データベース

2009年度に基本システムが完成した当館の収蔵品データベースについて、データの入力・更新、デジタル画像の登録、ならびにシステムの改善を行った。アルバイト1名を雇用し、下記の作業を行った。

- ① 引き続き、展示履歴および作品解説の入力作業を行った。また、前年に引き続き、画像の閲覧性を高めるべく、画像の配列を改良した。
- ② 新規撮影したデジタル画像の登録を、引き続き行った。

（3）研究資料の整備

美術品の調査・研究に必要な研究図書や研究資料の購入・収集・整理を行った。

- ① 昨年度に引き続き、図書の受入や収蔵図書データベースの整備や修正を行うことで、図書管理体制の充実化を図った。アルバイト2名を雇用し、購入・受贈図書の新規受け入れの他、継続して海外の展覧会図録、紀要・報告書、雑誌の曝書（蔵書点検）と、データの見直し及び修正を進め、資料の円滑活用と適切な保管維持を図った。
- ② 美術館・博物館等186機関の学術刊行物、および当館作品掲載図書等697冊を受贈した。
- ③ 展覧会の開催や当館所蔵品の研究のため、150冊の図書・雑誌を購入した。

（4）学術プロジェクトへの参加

・展覧会図録、学術研究誌および単行本上に、下記のとおり、当館学芸員が研究成果を発表した。

野口 剛 「喜多川相説の『出現』とその『行方』」（『加賀につづいた琳派 宗雪・相説 宗達と光琳の間に』石川県立美術館）

「琳派生成のひとつの様相 伊勢物語図様の継承と更新」(『伊勢物語 美術が映す王朝の恋とうた』根津美術館)

「和歌のある伊勢物語絵と和歌のない伊勢物語絵」(同上)

「修理報告 国宝 紙本墨画漁村夕照図 伝牧谿筆」(『根津美術館紀要 此君』17号)

本田 諭 「和魂漢才―書画のススメ 重要文化財「披錦斎図」宗甫紹鏡ほか六僧賛」(『美術の窓』8月号)

「根津美術館的「唐繪」収蔵 「唐繪―中國繪畫與日本中世水墨畫」特展」(『典藏古美術』395号 [翻訳:阿玉新])

「重要美術品「毘沙門天図像」(玄証本)の制作年代について」(『根津美術館紀要 此君』17号)

永田智世 「牡丹唐草蒔絵螺鈿説相箱」(『國華』第1555号)

「蒔絵における謡曲意匠の展開 ―謡寄蒔絵提重を中心に―」(『根津美術館紀要 此君』17号)

下村奈穂子「初代根津嘉一郎の別邸の茶室」(『根津美術館紀要 此君』17号)

福島洋子 「重要文化財 月江正印墨蹟について」(『根津美術館紀要 此君』17号)

玉井あや 「初代根津嘉一郎の初期染織コレクション ―染織図案集『綾錦』掲載作品を手掛かりに」(『根津美術館紀要 此君』17号)

松原 茂 「業平集の古筆」(『伊勢物語 美術が映す王朝の恋とうた』根津美術館)

「「鏡山図」の原形」(『根津美術館紀要 此君』17号)

なお、前年度の「江戸後期における蒔絵表現の諸相 ―飯塚桃葉作『百草蒔絵葉筆笥』を中心に―」(『國華』1546号)により、永田智世が第37回国華奨励賞を受賞した。

・館外の研究・教育機関等の依頼により、下記のとおり、当館学芸員が講演を行った。

野口 剛 文化庁 指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー

・文部科学省・文化庁・教育委員会、独立行政法人および公私立の博物館・美術館等の要請により、下記のとおり、当館学芸員が、美術品の指定、購入、修理、技術保存、館の運営に関わる会議に委員として参画した。

本田 諭 文化庁 指定文化財保存修理事業審査委員会

足利市 文化財専門委員会

宇都宮市 文化財保護審議委員会

東北歴史博物館 資料評価委員会

栃木県立博物館 資料評価委員会

半蔵門ミュージアム 特別展「足利樺崎寺と運慶」実行委員会

東京国立博物館 寄贈文化財価格評価会

下村奈穂子 東京国立博物館 寄贈文化財価格評価会

福島洋子 東京国立博物館 寄贈文化財価格評価会

玉井あや 東京国立博物館 寄贈文化財価格評価会

西田宏子 佐賀県文化財保護審議会

松原 茂 文化庁 皇居三の丸尚蔵館収蔵文化財保存修理事業審査委員会

・文化庁、独立行政法人、公私立の博物館・美術館および研究者の要請により、下記のとおり、当館学芸員が、学術研究に参画した。

本田 諭 栃木県立博物館 調査研究協力員
松原 茂 東京国立博物館 客員研究員

(5) 美術品の閲覧

以下のとおり、所蔵美術品の特別閲覧を行った。

[2025 年]

4 月 29 日	東京大学 (1 名)	龍図 他 7 件
4 月 29 日	日本工芸会正会員 (1 名)	備前蕪口插座花入
5 月 8 日	東京国立博物館 (1 名)	重美 太刀 銘 長光 他 1 件
5 月 22 日	鳥取県立美術館 (2 名)	吉野龍田図
5 月 27 日	京都国立博物館 (2 名)	釈迦三尊像 他 3 件
6 月 6 日	東京大学 (2 名)	龍鎗金硯箱 他 2 件
6 月 9 日	武蔵大学 (4 名)	宝飾時計 他 2 件
6 月 18 日	サントリー美術館 (1 名)	朱漆盤 他 1 件
6 月 21 日	元日本美術刀剣保存協会 (1 名)	重美 太刀 銘 来国俊 他 13 件
6 月 22 日	元日本美術刀剣保存協会 (1 名)	短刀 城州埋忠作 他 17 件
6 月 27 日	東京国立博物館 (2 名)	粉彩百鹿尊壺 他 15 件
7 月 4 日	山梨県立博物館 (3 名)	花白河蒔絵硯箱 (写し) 他 4 件
7 月 9 日	京都国立博物館 (1 名)	串木野窯跡出土陶片 他 4 件
8 月 6 日	鎌倉国宝館 (3 名)	重文 阿弥陀如来像 他 2 件
8 月 11 日	元日本美術刀剣保存協会 (1 名)	脇指 月山貞一造之 他 2 件
9 月 18 日	東京国立博物館 (1 名)	刀 銘 備前国住長船勝光宗光作 備中国住人上田□新次郎作之／文明三年九月九日 他 1 件
9 月 24 日	東京国立博物館 (1 名)	青井戸茶碗 銘 凉及 他 1 件
11 月 7 日	京都芸術大学 (2 名)	重文 座右銘断簡 (大師会寄託)
11 月 6 日	東京国立博物館 (1 名)	丸壺茶入 銘 石河 他 4 件
11 月 12 日	根津美術館理事 (1 名)	岩上観音図
11 月 19 日	帝塚山大学 (1 名)	祥瑞獅子香炉 他 3 件
11 月 27 日	九州国立博物館 (1 名)	白衣観音図

[2026 年]

1 月 18 日	九州歴史資料館 (1 名)	青磁有蓋四耳壺 他 3 件
1 月 14 日	同志社大学 (1 名)	青磁一葉香合 他 3 件
1 月 29 日	愛知県立芸術大学 (4 名)	重文 阿弥陀如来像
2 月 18 日	常盤山文庫 (1 名)	緑釉貼花文大壺 他 14 件
2 月 26 日	常盤山文庫 (1 名)	白磁水注 他 15 件
3 月 5 日	静嘉堂文庫美術館 (4 名)	重文 註楞伽經 卷第七 他 2 件
3 月 13 日	東京大学 (34 名)	国宝 那智瀧図 他 3 件
3 月 11 日	五島美術館 (2 名)	連歌帖 他 3 件
3 月 17 日	九州国立博物館 (1 名)	画文帯環状乳神獸鏡

3月18日 京都産業大学（1名）

重文 古今和歌集

計 32 件 閲覧者 84 名 作品総数 157 件

4. 教育普及

（1）催事

特別展・企画展ごとに担当学芸員によるスライドレクチャーを実施した。また、企画展「唐絵 中国絵画と日本中世の水墨画」、特別展「伊勢物語 美術が映す王朝の恋とうた」と同「英姿颯爽 根津美術館の武器武具」では外部講師による講演会を実施した。開催実績および出席者数は下記のとおりである。また展示の趣旨に即した、特別催事や特別企画も開催された。いずれも特別な記載がない場合、当館講堂にて実施した。

[2025 年]

・財団創立 85 周年記念特別展

「国宝・燕子花図と藤花図、夏秋溪流図－光琳・応挙・其一をめぐる 3 章」

スライドレクチャー（第 1 回）4 月 18 日（金）11:30～12:15 参加者 106 名

スライドレクチャー（第 2 回）4 月 25 日（金）11:30～12:15 参加者 117 名

スライドレクチャー（第 3 回）5 月 8 日（木）17:30～18:15 参加者 83 名

・企画展「はじめての古美術鑑賞－写経と墨跡－」

スライドレクチャー（第 1 回）6 月 13 日（金）11:30～12:15 参加者 116 名

スライドレクチャー（第 2 回）6 月 27 日（金）11:30～12:15 参加者 94 名

・企画展「唐絵 中国絵画と日本中世の水墨画」

スライドレクチャー（第 1 回）8 月 1 日（金）11:30～12:15 参加者 92 名

スライドレクチャー（第 2 回）8 月 15 日（金）11:30～12:15 参加者 98 名

講演会 8 月 16 日（土）14:00～15:30

「日本が愛した宋時代宮廷の書画」板倉聖哲氏（東京大学東洋文化研究所教授） 参加者 99 名

・企画展「焼き締め陶 土を感じる」

スライドレクチャー（第 1 回）9 月 26 日（金）11:30～12:15 参加者 100 名

スライドレクチャー（第 2 回）10 月 10 日（金）11:30～12:15 参加者 101 名

特別企画「現代 3 作家による 茶室でみる焼き締め陶の現在」

10 月 3 日（金）～5 日（日）打田 翠氏（斑鳩庵・清溪亭） 参加者 約 360 名

10 月 10 日（金）～12 日（日）松永圭太氏（一樹庵・披錦斎） 参加者 約 600 名

10 月 17 日（金）～19 日（日）伊勢崎晃一朗氏（弘仁亭・無事庵） 参加者 約 790 名

・在原業平生誕 1200 年記念特別展「伊勢物語 美術が映す王朝の恋とうた」

講演会 11 月 8 日（土）14:00～15:30

「伊勢物語の美術を彩る業平の恋と歌」河田昌之氏（和泉市久保惣記念美術館館長、本展監修者）

参加者 95 名

スライドレクチャー（第 1 回）11 月 7 日（金）11:30～12:15 参加者 98 名

スライドレクチャー（第 2 回）11 月 28 日（金）11:30～12:15 参加者 92 名

特別催事 能舞「井筒」九世観世鍬之丞氏（能楽師）11 月 21 日（金）14:00～15:00

参加者 68 名（参加費 2,000 円／販売数 70 席）

[2026 年]

・企画展「綾錦 近代西陣が認めた染織の美」

スライドレクチャー（第 1 回）1 月 9 日（金）11:30～12:15 参加者 100 名

- スライドレクチャー（第2回）1月23日（金）11:30～12:15 参加者 91名
- ・企画展「英姿颯爽 根津美術館の武器武具」
- 講演会 3月14日（土）14:00～15:30
- 「光村コレクションの刀剣」久保恭子氏（元日本美術刀剣保存協会博物館事業課長・専門学芸員）
参加者 93名
- スライドレクチャー（第1回）2月27日（金）11:30～12:30 参加者 56名
- スライドレクチャー（第2回）3月20日（金）11:30～12:30 参加者 69名
- 特別催事 素浄瑠璃「壺坂権現霊験記 沢市内より山の段」3月8日（日）13:00～14:00
豊竹呂勢太夫氏・鶴澤燕三氏（人形浄瑠璃文楽座）
参加者 94名（参加費 2,000円／販売数 100席）

加えて、特別企画として下記の催事を実施した。特別な記載がないものは、当館講堂にて実施した。
[2025年]

- ・「出帛紗・古帛紗を作ってみよう」
8月9日（土）講師：永井亜希乃氏（茶器袋物師）
定員 20名（10名×2回） 参加費 12,000円（出帛紗）/8500円（古帛紗）
申込者 20名、参加者 19名
- ・「茶杓をけずってみよう」
9月28日（日）講師：池田泰輔氏（竹楽会講師・竹芸家）
定員 20名（10名×2回） 参加費 10,000円
申込者 20名、参加者 20名
- ・「現代茶人の茶席」 場所：一樹庵・披錦斎
10月5日（日） 赤井厚雄氏
11月30日（日） 齊藤了太氏
各日定員 65名（13名×5席） 参加費 8,000円
申込者 130名、参加者 127名

[2026年]

- ・特別催事 茶室で楽しむ椿の花芸
3月19日（木）～21日（土）10:00～16:00（最終日は15:00まで）
安達瞳子氏（花芸安達流・二代主宰） 弘仁亭・無事庵 参加者約 920名

（2）インターネットによる広報

展覧会や各種の催事、施設等の情報発信窓口であるウェブサイト(<https://www.nezu-muse.or.jp>)は、本年度、よりの確に情報にアクセスし、かつ快適に利用できるような構成を見直し、デザインを一新した。年間の閲覧回数は約 1,800,000 セッション、ユーザー数は約 1,300,000 人であった。また、ユーザーのうち日本語以外の言語環境が占める割合は約 22%、日本以外の地域からのアクセスは約 14%であった。

ウェブサイトに次ぐ情報発信ツールとして利用している Facebook のフォロワー数は約 46,000 名とやや増加した。X でのフォロワー数は期初の約 59,000 人から約 62,000 人に、Instagram のフォロワー数は約 37,000 人に増加した。特に Facebook と Instagram では、展示作品に関する投稿や入館方法の案内、庭園の季節の見どころ等の情報を、基本的に日本語・英語のバイリンガルで投稿している。

(3) プレスリリース

美術館や展覧会の情報を、各種メディアに告知するプレスリリースを発信し、各展覧会の開催時期に合わせた各種パブリシティへの掲載、雑誌での特集記事やテレビ番組への協力を促進した。特に、展覧会ごとのポスター・チラシのデザインをプレスリリースにも使用し、展覧会のコンセプトを一貫したイメージで訴求できるように、それに伴う制作スケジュールの管理・運用を行っている。国内のみならず、海外の各種メディアからの問い合わせに対して情報を提供し、ニーズに合った対応に引き続き努めた。また、タイムリーな情報提供と環境負荷の低減の観点から、希望者に対しては広報資料のメール配信を引き続き行っている。さらにプレスリリース配信サービスとクリッピングサービスを利用。主流となりつつあるウェブメディアでの掲載情報の捕捉に努めるとともに、さらに効率よく広範囲な情報提供を目指す。

(4) ポスター・チラシ・年間スケジュールパンフレット

期初で館外3か所、2026年2月からは1か所撤去して2か所に開催中の展覧会ポスターを掲示。館内には次回展のポスターとチラシや、年間スケジュール、根津倶楽部パンフレットを常備し、美術館および展覧会の認知度アップに努めた。英語版の館内配布用展示目録パンフレットならびに英語版チラシの作成・配布を引き続き行った。今年度も、各展覧会の開催時期に合わせ、近隣の商店や公共施設、文化教育施設、美術館、博物館、古美術商等に展覧会のポスターやチラシを配布し、各展覧会の内容に即した特定団体への情報提供を行うなど、きめ細かな誘客活動に努めた。

(5) 内覧会・レセプション

展覧会の開催日前日（年度内7回）に、各種メディア向けの記者内覧会を実施して、展覧会の担当学芸員による展示解説を行い、メディアによる宣伝活動の促進を目指した。また1件の特別展で特別内覧会を開催した。

・財団創立85周年記念特別展「国宝・燕子花図と藤花図、夏秋溪流図 一光琳・応挙・其一をめぐる3章」

4月11日（金）記者内覧会 出席者50名

・企画展「はじめての古美術鑑賞 一写経と墨蹟」

5月30日（金）記者内覧会 出席者24名

・企画展「唐絵 一中国絵画と日本中世の水墨画」

7月18日（金）記者内覧会 出席者44名

・企画展「焼き締め陶 一土を感じる」

9月12日（金）記者内覧会 出席者21名

・在原業平生誕1200年記念 特別展「伊勢物語 一美術が映す王朝の恋とうた」

10月31日（金）記者内覧会 出席者42名
特別内覧会 出席者313名

・企画展「綾錦 一近代西陣が認めた染織の美」

12月19日（金）記者内覧会 出席者47名

・企画展「英姿颯爽 一根津美術館の武器・武具」

2月13日（金）記者内覧会 出席者33名

(6) 施設案内パンフレット

日本語・英語・仏語・中国語のパンフレットを館内に常備している。また外部の観光案内施設等か

ら要望がある場合も送付サービスを行っている。

（７）他美術館との協力

- ・例年実施してきた三井記念美術館、五島美術館との共同企画として「秋の三館 美をめぐる」キャンペーンを実施した。
- ・引き続き、美術館関連団体に加入することで、他の美術館との情報交換を推進し、美術館業界の活性化に努めた。

（８）地域との連携

- ・港区内の美術館として、本年度も、同区が年２回発行する広報誌『港区ミュージアムネットワーク』に展覧会情報を掲載した。
- ・展覧会のポスターやチラシを館員が持参して近隣商店や団体に届けることにより、緊密な関係構築に努めた。
- ・港区立青南小学校３年生の「総合」の授業への協力として、地域の施設紹介プログラム作りのための見学を受け入れ、施設紹介等を行った。近隣の港区立小学校に併設されている学童保育施設「放課 Go!クラブ」の３年生以上の児童の展示見学も毎展覧会実施。これらの活動は今後も継続していく予定である。
- ・港区立青山生涯学習館で、根津美術館の紹介と企画展「英姿颯爽 根津美術館の武器・武具―」の見どころについて担当学芸員が講演を行い、その後参加者が展覧会を見学した(2月17日実施)。

（９）有料広告

今年は２展覧会で新聞広告を実施し、WEB 広告、SNS 広告に加え、LINE 広告も実施。展覧会の内容、ビジュアルとの親和性を考慮しつつ各展覧会で媒体の選択をした。

- ・財団創立 85 周年記念特別展「国宝・燕子花図と藤花図、夏秋溪流図 一光琳・応挙・其一をめぐる 3 章―」：朝日新聞朝刊、WEB 広告 (Yahoo)
- ・企画展「はじめての古美術鑑賞 一写経と墨蹟―」：WEB 広告 (Yahoo)
- ・企画展「唐絵 一中国絵画と日本中世の水墨画―」：WEB 広告 (Yahoo)、Instagram
- ・企画展「焼き締め陶 一土を感じる―」：Instagram
- ・在原業平生誕 1200 年記念特別展「伊勢物語 一美術が映す王朝の恋とうた」：朝日新聞朝刊、東京新聞朝刊、Instagram、WEB 広告 (Yahoo)
- ・企画展「綾錦 一近代西陣が認めた染織の美―」：Instagram、WEB 広告 (Yahoo)、LINE 広告
- ・企画展「英姿颯爽 根津美術館の武器・武具―」：WEB 広告 (Yahoo)

また、2026 年の展覧会を紹介するために、12 月発行の『日経おとなの OFF 2026 年絶対に見逃がせない美術展』に年間展覧会スケジュールを掲載した (カラー、1 頁)。

本年度も引き続き、地下鉄・表参道駅のポスター (チラシ配布用ポケット付) 掲示を、7 展覧会において、それぞれ 2 週間ずつ実施した。これを通じ、同駅利用者に毎回 300 枚～400 枚程度のチラシを配布することができた。

（１０）根津倶楽部

「根津倶楽部」は、固定客層の獲得を目的として、2009 年に開始した会員組織である。2012 年の第 1 回の制度改定に続き、美術館新創開館 10 周年を迎えた 2019 年に第 2 回制度改定を行なった。結果、2025 年度末の会員数は 781 名となった。

(11) メールマガジン

根津美術館の会員制メールマガジン（会費無料）は、新創開館以来会員数が増え続け、2025 年度末の有効配信数は、2024 年度末の 8577 件に対し、8914 件となった。2025 年度は 7 回メールマガジンを配信した。

(12) 青山茶会

「青山茶会」は、茶道にある程度習熟した人々を対象に、茶道美術への理解と普及、および当館のファンやリピーターを増すことを目的として、茶会と講座への参加及び入館料無料の特典を提供する会員制度（有料）である。2025 年度は 2024 年度と同様の年会費、茶会と講座の実施回数、募集人数で実施した。

[2025 年]

第一回講座 4 月 26 日(土) 参加者 84 名

神津朝夫氏「一服一銭と茶の湯」

第一回茶会 6 月 14 日(土) 参加者 117 名

席主：藪内燕庵

展観席：根津美術館

春屋宗園筆 直透万重関不住青霄裡、利休瀬戸茶入 銘
躍駒、井戸脇平茶碗 他 6 件

第二回講座 7 月 19 日(土) 参加者 87 名

ふくやま美術館 原田一敏氏「利休の釜師・辻与次郎と京釜 一芦屋・天命釜から
京釜へー」

第二回茶会 11 月 15 日(土) 参加者 108 名

席主：茶道宗和流

展観席：根津美術館

一休宗純墨蹟 偈、瀬戸翁手茶入 銘 宇都山、瀬戸黒
茶碗 銘 玉むし 他 7 件

[2026 年]

第三回講座 1 月 31 日(土) 参加者 80 名

根津美術館 西田宏子「久しぶりの阿蘭陀」

第三回茶会 3 月 7 日(土) 参加者 115 名

席主：今日庵

展観席：根津美術館

砂子切（兼輔集） 藤原定信筆、柳蒔絵棗、青磁人形手
茶碗 他 6 件

(13) 懸釜

・遠州流茶道宗家 13 世不傳庵小堀宗実家元古稀祝賀茶会

2025 年 9 月 14 日（日）

東京美術倶楽部 済美庵・月の間

作品： 根津青山筆 徳不孤必有隣 1 幅

10237 狩野益信筆 富士山図 1 幅

50331 青貝婦女笛吹香合	1 合
50393 蒟醬鳥獸唐草文炭斗	1 口
60079 替鶴羽箒 小堀遠州作	1 本
金銀象嵌火箸 埋忠作	1 対
30343 銀象嵌夕顔文相生鐲 金森徳元作	1 組
42261 南蛮内洪灰器	1 口
砂張蕾頭灰匙	1 本
00062 重要美術品 清遠懷渭墨蹟 偈頌	1 幅
40349 青磁竹子花入	1 口
30340 七宝文真形釜	1 口
30340 唐銅六角風炉	1 口
40639 三島芋頭水指	1 口
40001 重要文化財 瀬戸丸壺茶入 銘 相坂	1 口
40184 御本立鶴茶碗	1 口
金モール帛紗	1 枚
60207 木下長嘯子作茶杓 共筒	1 本

(14) 美術品の貸与

以下の展覧会等に、所蔵美術品の貸与を行った。

- ・開館 50 周年記念特別展「雪村－常陸に生まれし遊歴の画僧－」 茨城県立歴史館
会期：2025 年 2 月 15 日（土）～ 4 月 6 日（日）
作品：10685 龍虎図屏風 雪村周継筆 6 曲 1 双
10546 潘閭図 祖栄筆 1 幅 計 2 件 3 点
- ・「Recasting the Past: The Art of Chinese Bronzes, 1100–1900」
The Metropolitan Museum of Art
会期：2025 年 3 月 3 日（火）～9 月 28 日（日）
作品：30155 古銅獅子耳花入 1 口
30156 古銅筋象耳花入 1 口 計 2 件 2 点
- ・春季特別展「うつくしきかな 一平安の美と王朝文化へのあこがれ」展 MIHO MUSEUM
会期：2025 年 3 月 15 日（土）～ 6 月 8 日（日）
作品：00002 柏木切 伝 藤原忠家筆 1 幅
00303 重要美術品 戊辰切 藤原伊行筆 1 幅
00348 小島切 伝 小野道風筆 1 幅
00003 山名切 藤原基俊筆 1 幅 計 4 件 4 点
- ・企画展「雪華の刀装具－土井利位の愛刀と工人たち－」 古河歴史博物館
会期：2025 年 3 月 15 日（水）～ 5 月 6 日（火）
作品：80858 雪華図鐔 後藤一乗作 1 枚
80857 雪華図鐔 後藤一乗作 1 枚
80862 雪華図鐔 後藤一乗作 1 枚
80872 四君子図鐔 後藤一乗作 1 枚
80864 雪華図大小鐔 後藤一乗作 2 枚
80233 俱利伽羅龍図三所物（小柄・筭・目貫） 後藤一乗作 1 揃

- | | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----|-------------|
| 80235 | 獅子戯宝図三所物（小柄・笄・目貫） | 後藤一乗作 | 1 揃 | |
| 80304 | 玄猪図二所物（小柄・目貫） | 後藤一乗作 | 1 揃 | |
| 80264 | 蟻蠅図二所物（小柄・笄） | 浜野政信作 | 1 揃 | |
| 80289 | 月梅茅屋図小柄 | 後藤真乗作 | 1 本 | |
| 80290 | 大根鼠図小柄 | 後藤真乗作 | 1 本 | |
| 80434 | 芭蕉図小柄 | 浜野政信作 | 1 本 | |
| 80674 | 河越虎図縁頭 | 浜野政信作 | 1 組 | |
| 80673 | 月出松図縁頭 | 浜野政信作 | 1 組 | 計 14 件 23 点 |
- ・特別展「没後 50 年 矢代幸雄と大和文華館 ―芸術を愛する喜び―」 大和文華館
 会期：2025 年 4 月 12 日（土）～ 5 月 25 日（日）
 作品：90063 重要文化財 饗饗文方盃 1 個
 10391 重要文化財 竹雀図 伝牧谿 筆 1 幅 計 2 件 2 点
- ・大阪・関西万博開催記念 特別展「日本、美のるつば ―異文化交流の軌跡―」
 京都国立博物館
 会期：2025 年 4 月 19 日（土）～ 6 月 15 日（日）
 作品：10141 重要文化財 善光寺如来縁起絵 3 幅 計 1 件 3 点
- ・特別展「日本国宝展」 大阪市立美術館
 会期：2025 年 4 月 26 日（土）～ 6 月 15 日（日）
 作品：10301 国宝 燕子花図 尾形光琳筆 6 曲 1 双 計 1 件 2 点
- ・企画展「加賀につづいた琳派 宗雪・相説 ―宗達と光琳のあいだに―」 石川県立美術館
 会期：2025 年 4 月 26 日（土）～ 5 月 25 日（日）
 作品：10334 四季草花図屏風 「伊年」印 6 曲 1 双
 10337 草花図 「伊年」印 6 曲 1 隻
 10336 四季草花図屏風 喜多川相説筆 6 曲 1 双 計 3 件 5 点
- ・「酒吞童子ビギンズ」展 サントリー美術館
 会期：2025 年 4 月 29 日（火・祝）～ 6 月 15 日（日）
 作品：10380 酒吞童子絵巻 住吉弘尚筆（第 1～4、6、7） 8 巻のうち 6 巻
 10702 酒吞童子絵巻 伝狩野山楽筆（中巻・下巻） 3 巻のうち 2 巻
 計 2 件 8 点
- ・「織部茶会」 上田流和風堂（会場：根津美術館 庭園内茶室）
 会期：2025 年 5 月 30 日（金）～ 5 月 31 日（土）
 作品：30210 桐紋釜（織部書状付属） 1 口（1 幅） 計 1 件 2 点
- ・「企画展死と再生の物語（ナラティブ） ―中国古代の神話とデザイン」展 泉屋博古館
 会期：2025 年 6 月 7 日（土）～ 7 月 27 日（日）
 作品：90253 伯牙弹琴盤龍鏡 1 面
 90255 孝子伝図画像鏡 1 面
 90264 画文帯同向式神獸鏡 1 面 計 3 件 3 点
- ・特別展「新しき国 新しき美術：朝鮮前期の美術」 韓国・国立中央博物館
 会期：2025 年 6 月 10 日（火）～ 8 月 31 日（日）
 作品：10533 地藏菩薩本願経变相図 1 幅
 10506 地藏曼陀羅図 1 幅 計 2 件 2 点
- ・特別展「宋元仏画―蒼海（うみ）を越えたほとけたち」展 京都国立博物館

- 会期：2025 年 9 月 20 日（土）～ 11 月 16 日（日）
- 作品：40288 重要美術品 曜変天目 1 口
- 10021 釈迦三尊像 周叟妙松賛 1 幅
- 10490 地藏菩薩像 1 幅 計 3 件 3 点
- ・開館 20 周年特別展「円山応挙－革新者から巨匠へ」 三井記念美術館
- 会期：2025 年 9 月 26 日（金）～ 11 月 24 日（月・祝）
- 作品：10323 重要文化財 藤花図屏風 円山応挙筆 6 曲 1 双 計 1 件 2 点
- ・特別展「百般紅翠斗芳菲 宋元明漆器珍品展」 東京国立博物館（会場：中国・上海博物館）
- 会期：2025 年 9 月 26 日（月）～ 11 月 23 日（金）
- 作品：50498 楼閣人物堆朱合子 1 合
- 50506 椿堆朱合子 1 合 計 2 件 2 点
- ・山梨県立博物館 開館 20 周年記念特別展「甲州財閥展」 山梨県立博物館
- 会期：2025 年 10 月 11 日（土）～ 12 月 1 日（月）
- 作品：50001-1 花白河蒔絵硯箱（写） 1 合
- 20066 菩薩像頭部 1 個
- 40092 重要美術品 文琳茶入 銘 白玉 1 口
- 40183 御所丸茶碗 1 口
- 10525 大津馬図 松花堂昭乗筆 1 幅 計 5 件 5 点
- ・特別展「扇影衣香－鎌倉と宋元・高麗の仏教絵画の交響－」 鎌倉国宝館
- 会期：2025 年 10 月 25 日（土）～ 12 月 14 日（日）
- 作品：10398 重要文化財 阿弥陀如来坐像 1 幅
- 10400 阿弥陀三尊像 1 幅
- 20018 阿弥陀如来立像 1 軀 計 3 件 3 点
- ・「めでたし うるわし ときにいさまし!? 花鳥画－日本美術といきものたち」
- 鳥取県立美術館
- 会期：2025 年 10 月 11 日（土）～ 11 月 24 日（月・祝）
- 作品：10325 吉野龍田図屏風 6 曲 1 双 計 1 件 2 点
- ・特別展「古染付と祥瑞 ー愛しの青（blue）ー」 五島美術館
- 会期：2025 年 10 月 28 日（火）～ 12 月 7 日（日）
- 作品：40304 祥瑞水玉茶碗 1 口
- 40524 祥瑞鳥刺瓢箪香合 1 合
- 40527 古染付叭々鳥香合 1 合
- 40641 南蛮芋頭水指 1 口
- 40661 祥瑞蜜柑水指 1 口
- 40667 古染付六角水注 1 口
- 40852 青花花籠文盤 1 口
- 40929 祥瑞瑠璃釉瓢形德利 2 口
- 40930 染付山水文捻形德利 1 口 計 9 件 10 点
- ・令和 6 年能登半島地震・令和 6 年奥能登豪雨 復興支援特別展
- 「ひと、能登、アート。」 東京国立博物館（会場：石川県立美術館）
- 会期：2025 年 11 月 15 日（土）～12 月 21 日（日）
- 作品：40221 青井戸茶碗 銘 涼及 1 口

50675	鼠短檠	1 基	
10314	舞楽図 久隅守景筆	6 曲 1 双	計 3 件 4 点
・特別展「NEGORO 根来 一赤と黒のうるし」 サントリー美術館			
会期：2025 年 11 月 22 日（土）～ 2026 年 1 月 12 日（月・祝）			
作品：50554	朱漆盤（連行衆盤）	1 枚	
50556	朱漆盤	1 枚	計 2 件 2 点
		合計 21 機関	66 件 92 点

（１５）画像の貸出

本年度は、133 件の申請を受け、327 画像を館外の刊行物や研究者に提供した。その内、貸出し件数の多いものは以下のとおりである。

燕子花図屏風 45 件、那智瀧図 7 件、藤花図屏風 3 件、阿弥陀如来像 3 件、地藏菩薩像 3 件

（１６）施設の貸与

以下の茶会等に講堂・茶室等の施設を貸与し、催事への協力を行った。

・茶会（茶室、講堂）

[2025 年]	主となる団体または茶会名	用途	人数
4 月 13 日	織部流古織会	茶会	123 名
4 月 17 日	三菱商事	茶会	20 名
4 月 20 日	摘星会	茶会	67 名
5 月 5 日	星窓茶道茶花教室	茶会	23 名
5 月 8 日	和のすてき	茶会	25 名
5 月 10 日・11 日	茶衆・聚	茶会	93 名
5 月 31 日	上田流和風堂	茶会	109 名
6 月 1 日	水無月會	茶会	41 名
10 月 12 日	静心合同会社	茶会	23 名
10 月 12 日	白栲会	茶会	37 名
10 月 18 日	両忘庵茶道同好会	茶会	7 名
10 月 19 日	両忘庵茶道同好会	茶会	12 名
11 月 3 日	三田福茶会・慶応茶道会	茶会	260 名
11 月 9 日	東三季	茶会	66 名
11 月 9 日	インターナショナル茶会	茶会	74 名
11 月 21 日・22 日	株式会社リューズデン	茶会	111 名
11 月 24 日	朋和会	茶会	107 名
11 月 30 日	なごみの会	茶会	41 名
12 月 3 日・4 日	WANOKOTO	茶会	55 名
2 月 17 日	星窓茶道教室	茶会	15 名
2 月 17 日	大師会	茶会	10 名
2 月 28 日・3 月 1 日	東京大学裏千家茶道同好会	茶会	78 名
3 月 8 日	白栲会	茶会	14 名
3 月 23 日・24 日	大師会	茶会	650 名
3 月 26 日	初風炉の一客一亭の茶会	茶会	6 名
			計 2,067 名

Ⅱ 収益事業

【事業の概要】

1. 不動産事業

日本殖産興業株式会社と持分割合二分の一で建築した「青山サンライトビル」を建物の当館持分を貸店舗として日本殖産興業株式会社に賃貸し、管理は日本殖産に業務委託。他に、サンライトビル日本殖産持分の地代、駐車場の賃料、NTT ドコモの移動通信設備設置料等の収入があった。

Ⅲ 庶務の概要

1. 役員

2026 年 3 月 31 日現在

役職名	勤務	氏 名	就任年月日 (初就任年月日)	職 歴		
				現職名	最終公務員暦・同一 業界	
					関係歴	退職年 月日
理事長	非常勤	根津 公一	2024 年 6 月 19 日 (2012 年 4 月 1 日)	株式会社東武百貨店 名誉会長	学校教育	な し
常務 理事	非常勤	岡橋 輝和	2024 年 6 月 19 日 (2020 年 6 月 26 日)	山九株式会社 顧問	な し	〃
理事	非常勤	島尾 新	2024 年 6 月 19 日 (2012 年 4 月 1 日)		学校教育	〃
〃	非常勤	渡邊 喜雄	2024 年 6 月 19 日 (2014 年 5 月 30 日)	WATAKI 株式会社 代表取締役会長	な し	な し
〃	非常勤	板倉 聖哲	2024 年 6 月 19 日 (2014 年 5 月 30 日)	東京大学東洋文化研究所 教授	学校教育	〃
〃	常 勤	柳瀬 茂	2024 年 6 月 19 日 (2018 年 5 月 28 日)	公益財団法人根津美術館 管理部長	な し	〃
〃	常 勤	野口 剛	2024 年 6 月 19 日 (2022 年 5 月 25 日)	公益財団法人根津美術館 学芸部長	〃	〃
〃	非常勤	佐野 みどり	2023 年 3 月 15 日 (2023 年 3 月 15 日)	國華主幹	学校教育	〃
〃	非常勤	前田 晃伸	2023 年 3 月 15 日 (2023 年 3 月 15 日)		NHK 元会長	2023 年 1 月
〃	非常勤	森 浩生	2023 年 3 月 15 日 (2023 年 3 月 15 日)	森ビル株式会社 取締役副社長執行役員	な し	〃

”	非常勤	安田 守	2023 年 3 月 15 日 (2023 年 3 月 15 日)	安田不動産株式会社 代表取締役社長	”	”
”	非常勤	土屋 範子	2025 年 3 月 19 日 (2025 年 3 月 19 日)		”	”
		12 名				
監事	非常勤	後藤 康雄	2024 年 6 月 19 日 (2012 年 4 月 1 日)	はごろもフーズ株式会社 代表取締役会長	な し	な し
”	非常勤	中瀬 雅通	2024 年 6 月 19 日 (2013 年 5 月 29 日)	株式会社三陽商会 相談役	”	”
		2 名				
評議員	非常勤	根津 嘉澄	2024 年 6 月 19 日 (2012 年 4 月 1 日)	東武鉄道株式会社 代表取締役会長	鉄道業	”
”	非常勤	秋山 智史	2024 年 6 月 19 日 (2012 年 4 月 1 日)	富国生命保険相互会社 相談役	保険業	”
”	非常勤	堀内 光一郎	2024 年 6 月 19 日 (2012 年 4 月 1 日)	富士急行株式会社 代表取締役社長	鉄道業	”
”	非常勤	山崎 妙子	2024 年 6 月 19 日 (2012 年 4 月 1 日)	公益財団法人山種美術財団 理事長	美術館	”
”	非常勤	徳川 義崇	2024 年 6 月 19 日 (2012 年 4 月 1 日)	公益財団法人徳川黎明会 会長	”	”
”	非常勤	根津 后方子	2024 年 6 月 19 日 (2012 年 4 月 1 日)	公益財団法人根津美術館 評議員	なし	”
”	非常勤	近藤 誠一	2024 年 6 月 19 日 (2014 年 3 月 19 日)	近藤文化・外交研究所 代表	文化庁 長官	2013 年 7 月
”	非常勤	池田 康夫	2024 年 6 月 19 日 (2021 年 3 月 24 日)	学校法人根津育英会武蔵学園 学園長 兼 副理事長	学校教育	な し
”	非常勤	米山 好映	2024 年 6 月 19 日 (2024 年 6 月 19 日)	富国生命保険相互会社 取締役会長	保険業	”
		9 名				

2. 職員

2026 年 3 月 31 日現在

職 名	勤 務	氏 名	就職年月日	担当事務
館 長	非常勤	根 津 公 一	2000 年 1 月 4 日	総 括
副館長 兼学芸部長	常 勤	野 口 剛	2008 年 10 月 1 日	総括・近世絵画
学芸部次長 兼学芸第二課長	常 勤	本 田 諭	2018 年 4 月 1 日	仏教美術・中世絵画・環境整備

学芸第一課長	常 勤	永 田 智 世	2018 年 4 月 1 日	漆工史・茶道・学芸庶務
学芸第一課主任	常 勤	下 村 奈穂子	2014 年 9 月 1 日	陶磁史・茶道・学芸庶務
学芸第一課	常 勤	玉 井 あ や	2020 年 4 月 1 日	染織史・茶道・情報管理・学芸庶務
学芸第二課	常 勤	福 島 洋 子	2009 年 4 月 1 日	墨跡・図書管理・学芸庶務
学芸部次長 [広報担当]	常 勤	所 純 子	2012 年 12 月 1 日	広報全般
学芸部広報課長	常 勤	村 岡 香代子	2013 年 1 月 1 日	広 報
学芸部広報課	常 勤	荒 川 麻美子	2009 年 4 月 1 日	ショップ・画像管理
管理部長	常 勤	柳 瀬 茂	2018 年 1 月 1 日	管 理 部 総 括
管理部次長	常 勤	鈴 木 康 生	2001 年 4 月 11 日	設備管理・顧客サービス
管理部次長	常 勤	藤 江 暁	2019 年 10 月 1 日	設備管理・顧客サービス
管理部次長	常 勤	本 尾 寿 敏	2025 年 11 月 16 日	設備管理・顧客サービス
管 理 部	常 勤	田 中 智 子	1990 年 9 月 1 日	総 務
管 理 部	常 勤	松 井 麻 美	2009 年 4 月 1 日	顧客・会計
管 理 部	常 勤	石 川 彩 花	2022 年 8 月 1 日	顧 客
		職員 17 名	他に臨時職員 24 名	

顧 問	非常勤	岡 橋 輝 和	2020 年 6 月 26 日	全 般
顧 問	常 勤	西 田 宏 子	2014 年 6 月 1 日	学 芸 部
顧 問	常 勤	松 原 茂	2024 年 7 月 1 日	学 芸 部
顧 問	顧 問	宇田川 真紀雄	2016 年 4 月 1 日	全 般
		顧問 4 名		

3. 役員会

(1) 理事会

第 50 回

開催日 2025 年 5 月 21 日 (水)

場所 根津美術館地下 1 階講堂

議事事項

第 1 号議案 2024 年度事業報告書の件

議長の指名により、野口理事副館長が同案についての内容説明を行った。質疑応答を経て審議の結果、原案を出席理事全員一致で承認可決した。

第 2 号議案 2024 年度正味財産増減決算書の件

議長の指名により、柳瀬理事管理部長が同案についての内容説明を行った。

予算内容に加え、主要な支出案件の説明も行った。

質疑応答を経て審議の結果、決算案としては原案を出席理事全員一致で承認可決した。

第3号議案 青山茶会会則改定の件

議長の指名により、宇田川顧問が同案についての内容説明を行った。質疑応答を経て審議の結果、原案を出席理事全員一致で承認可決した。

第4号議案 定時評議員会招集の件

議長の指名により、柳瀬理事管理部長が同案についての内容説明を行った。
原案を出席理事全員一致で承認可決した。

報告事項

①理事長の業務の執行状況の件

根津理事長が記載した業務の執行状況の報告文書を、事務局が理事長に代わって代読した。

②常務理事の業務の執行状況の件

岡橋常務理事より、業務の執行状況について報告があった。

第51回

開催日 2025年10月22日（水）

場所 根津美術館 地下1階講堂

議事事項

第1号議案「美術品寄贈受入れ規則」の制定並びに事務処理規則第8条別表の該当内容の追加の件

議長の指名により、柳瀬理事管理部長が同案についての内容説明を行った。質疑応答を経て審議の結果、原案を出席理事全員一致で承認可決した。

第2号議案 川上 博氏からの寄贈の受入れ 桜・銀杏図扇 鈴木其一筆

議長の指名により、野口理事副館長が同案についての内容説明を行った。
質疑応答を経て審議の結果、原案を出席理事全員一致で承認可決した。

報告事項

①2026年度展覧会スケジュール

野口理事副館長より、内容の報告があった。

②理事長の業務の執行状況の件

根津理事長より、業務の執行状況について報告があった。

③常務理事の業務の執行状況の件

岡橋常務理事より、業務の執行状況について報告があった。

第52回

開催日 2026年3月11日（水）

場所 根津美術館 地下1階講堂

議事事項

第1号議案 2026年度事業計画書の件

根津理事長が同案についての内容説明を行った。

質疑応答を経て審議の結果、原案を出席理事全員一致で承認可決した。

第2号議案 2026年度正味財産増減予算書の件

議長の指名により、柳瀬理事管理部長が同案についての内容説明を行った。

質疑応答を経て審議の結果、原案を出席理事全員一致で承認可決した。

第3号議案 2026年度の資金調達及び設備投資の見込みの件

議長の指名により、柳瀬理事管理部長が同案についての内容説明を行った。

質疑応答を経て審議の結果、原案を出席理事全員一致で承認可決した。

第4号議案 「特定費用準備資金等取扱規則」の「公益充実資金等取扱規則」への改定の件

議長の指名により、柳瀬理事管理部長が同案についての内容説明を行った。

質疑応答を経て審議の結果、原案を出席理事全員一致で承認可決した。

第5号議案 公益充実資金「インフラ積立」の新規設定の件

議長の指名により、柳瀬理事管理部長が同案についての内容説明を行った。

質疑応答を経て審議の結果、原案を出席理事全員一致で承認可決した。

第6号議案 2026年度開始の日において行う公益目的事業の種類又は内容、収益事業等の内容の件

議長の指名により、柳瀬理事管理部長が同案についての内容説明を行った。

質疑応答を経て審議の結果、原案を出席理事全員一致で承認可決した。

第7号議案 評議員会の招集に関する件

議長の指名により、柳瀬理事管理部長が同案についての内容説明を行った。

質疑応答を経て審議の結果、原案を出席理事全員一致で承認可決した。

報告事項

①理事長の業務の執行状況の件

根津理事長より、業務の執行状況について報告があった。

②常務理事の業務の執行状況の件

岡橋常務理事より、業務の執行状況について報告があった。

(2) 評議員会

第27回

開催日 2025年6月11日(水)

場所 根津美術館 地下1階講堂

議事事項

第1号議案 2024年度事業報告の件

野口理事学芸部長より、同案についての内容説明があった。質疑応答を経て審議の結果、原案を出席評議員全員一致で承認可決した。

第2号議案 2024年度正味財産増減決算の件

事務局より、同案についての内容説明があった。また、あわせて主な設備関係の支出内容及び概算金額についても説明がなされた。

質疑応答を経て審議の結果、原案を出席評議員全員一致で承認可決した。

第3号議案 理事4名選任の件

岡橋常務理事より、2024年6月19日に任期満了退任している、佐野 みどり氏、前田晃伸氏、森 浩生氏、安田 守氏の候補者4名について、改めて理事に選任したい旨、説明があった。

候補者一人一人について審議の結果、各々原案を出席評議員全員一致で承認可決した。

第4号議案 青山茶会会則改訂の件

事務局より、同案についての内容説明があった。質疑応答を経て審議の結果、原案を出席評議員全員一致で承認可決した。

報告事項

①事務局から、根津理事長が事情により出席できない旨、報告があった。

第28回

開催日 2026年3月18日（水）

場所 根津美術館 地下1階講堂

議事事項

第1号議案 2026年度事業計画書の件

根津公一理事長より、同案についての内容説明があった。質疑応答を経て審議の結果、原案を出席評議員全員一致で承認可決した。

第2号議案 2026年度正味財産増減予算書の件

事務局より、同案についての内容説明があった。また、あわせて主な設備関係の支出内容及び概算金額についても説明がなされた。

質疑応答を経て審議の結果、原案を出席評議員全員一致で承認可決した。

報告事項

①事務局より「特定費用準備資金等取扱規則」の「公益充実資金等取扱規則」への改定について報告があった。

②事務局より公益充実資金の新たな設定について報告があった。

名称を「インフラ積立」とすること、設備関連7ヵ年計画に基づく必要な資金のうち、資産計上するものを対象とすること、計画期間、積立限度額、開始時期について説明があった。

IV 法人の運営体制の充実を図るための取組

1. 諸規定・規則の制定と運用

会計処理規則等 28 件の諸規定・規則を整備・制定している。

法令改正や社会環境の変化等に的確に対応するため、必要に応じて規定の追加や内容の見直しを行い、これらを適切に運用することで、公益財団法人としての適正なガバナンスの確保に努めている。

2. 諸規定および当該内容の追加

(1) 「美術品寄贈受入れ規則」の制定と、事務処理規定第 8 条別表に定める指定合議先の追加

2025 年 10 月 22 日（水）開催の理事会において、当館が美術品の寄贈を受け入れる際の基準、手続および管理方法を成文化し、文化資産の適正な保存および活用を図ることを目的として、「美術品寄贈受入れ規則」を制定した。

併せて、事務処理規定第 8 条別表に定める指定合議先の追加について決議した。

これにより、美術品寄贈の受入れに関する定義、受入基準および関連手続を規則類として明定し、運用の明確化を図った。

(2) 「特定費用準備資金等取扱規則」を「公益充実資金等取扱規則」へ改訂

2026 年 3 月 11 日（水）開催の理事会において、2024 年度公益法人制度改革（2025 年 4 月施行の公益認定法）に伴う制度改革に対応するため、「特定費用準備資金等取扱規則」を「公益充実資金等取扱規則」へ改訂することを決議した。

V 事業報告の附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。